

平成30年3月3日(土)

蟹ヶ谷古墳群現地見学会

主催：川崎市教育委員会
協力：川崎市内古墳発掘調査団（鶴見大学・専修大学文学部・日本大学文理学部・多摩川流域遺跡群研究会）

ごあいさつ

平成24年度から5か年にわたり実施した蟹ヶ谷古墳群の調査研究では、前方後円墳が川崎市内に現存することを確認し、市域の古代を考える上で大きな発見となりました。またこの調査では、これまで3基の古墳で構成されると考えられていた古墳群の周囲で新たに古墳がみつき、蟹ヶ谷古墳群にまだ多くの未解明部分があることが成果とともに判明しました。

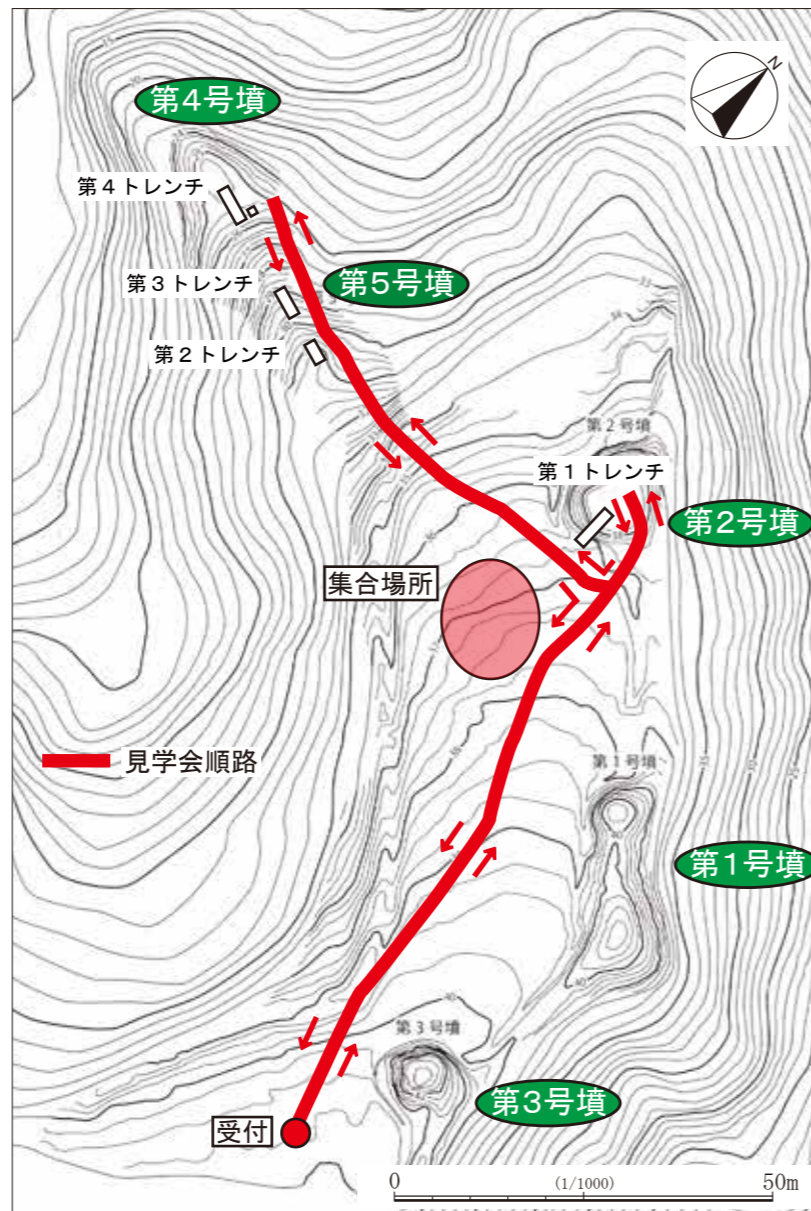
こうした事態をふまえ、川崎市教育委員会では、蟹ヶ谷古墳群の調査を継続して実施し、その内容を明らかにするために、川崎市内古墳発掘調査団（鶴見大学・専修大学文学部・日本大学文理学部・多摩川流域遺跡群研究会）と今年度から4か年事業で、調査を実施していきます。調査の進展の中でわかった情報は、現地見学会などを通じて市民の皆様にお知らせし、川崎市域の遺跡の保存活用につとめていきます。皆様のご理解とご協力をいただきたくお願い申し上げます。

蟹ヶ谷古墳群とは

高津区蟹ヶ谷97-5ほかの神庭特別緑地内にある古墳群です。平成24年度からの調査により、前方後円墳1基（第1号墳）と直径約18mの円墳2基（第2・3号墳）のほかに、非常に低いマウンドをもつ円墳2基（第4・5号墳）の、合計5基の古墳があることが判明しています。1号墳は、出土した埴輪の年代から、6世紀後半の古墳時代後期から飛鳥時代初期にかけて築造されたと考えられます。その他の古墳の年代は、時期を特定する資料がなく、いまだ不明です。井田・蟹ヶ谷地域をおさめたりーダーが葬られた古墳群です。



第4号墳の墳頂から現れた須恵器大甕



古墳及びトレンチ配置図

平成29年度の調査の概要

平成25・26・27年度に実施した発掘調査では、第1号墳からは埴輪が出土しましたが、第2・3号墳からの出土遺物はなく、年代を知ることができませんでした。また、第1号墳の被葬者が埋葬された埋葬主体部は、すでに削り取られていたことが調査によりわかりましたが、第2・3号墳の埋葬主体部がどうなっているかについてはまだ情報を得ていません。そこで今回の発掘では、第2号墳の墳丘の頂部の平坦面に調査区を設定し、埋葬主体部の確認を調査目的のひとつにしています。

また、平成26・27年度の調査中に低いマウンドをもつ古墳が新発見されました。これについて、規模や形・年代の材料を得ることも、もうひとつの調査目的にしています。

第2号墳

蟹ヶ谷古墳群の中では、比較的残りが良いと思われる円墳です。これまでの調査により、直径約18mと推定されます。本年度は、墳丘の頂部に調査区を設定し、埋葬主体部の検出につとめています。

調査途中の所見ですが、墳丘の中央部に、地上から掘り込んだ大きな穴の跡が見つかり、盗掘のための穴ではないかと検討しているところです。また調査トレンチでは古墳の盛土がみつかり、この土の盛り方についても検討をしています。

第4号墳・第5号墳

痩せ尾根の尾根線に築造された古墳です。低いマウンドをもつ古墳ですが、今回の発掘調査では、古墳の裾部分に発掘区を設定し、古墳の規模・形を調べています。第4号墳からは、須恵器という土器が出土しているため、年代を知る手がかりを得ています。



第1トレンチ（第2号墳）



第2トレンチ（第5号墳）



第3トレンチ（第5号墳）



第4トレンチ（第4号墳）